

毎日歌壇

水原 紫苑 選

三面鏡の右から冬がやってくる うまれかわりの律を乱して 加古川市 石村 まい

〈評〉三面鏡の右とは何だろう。イエス・キリストが父なる神の右にのぼることも思いつく。起こされる。

夕凧に出会うと僕は右隅にFinと書いてうとするから困る 枚方市 久保 哲也

〈評〉書いてしまったら本当におしまいなのだろうか。詩人はいつもそれを考える。

もたれるとたやすく折れてしまいう街路樹はまだひかりの群生 東京 藤沢 静二
電線に一直線の風を見るなんのためにと思ってるのに 岡山市 松井 度

命とは影と歩んでゆくものかわれを歪に映す砂浜 四日市市 早川 和博

気づかれずに気づいてほしい無花果の香りをニットの袖で隠した 鶴岡市 鳥井 景

しんと立つランタンキュラスよわたくしの怒りにも水を水をください 千葉市 芍 葉

正位置が文字の天地で決められたビーチボールの地球儀を蹴る 東京 音羽 凜

冬空ゆつぎつぎ剣がれ落ちてくる鱗のやうな雪のさみしさ 見附市 有村 桔梗

親よりも俺を愛してくれる人そんな物好き俺へらいだぜ 熊本市 夏風かをる

伊藤 一彦 選

風吹けどたわめ節もつなよ竹の心をいだき生きて行きたし 愛知 横尾 湖衣

〈評〉「たわめ節」をもつ竹のイメージが作者の思いをしっかりと伝える。しなやかに揺れながら自分を貫く生き方への憧れ。

戦争のニュースに北朝鮮兵士観て息子の顔と似て見える 札幌市 佐藤 学

〈評〉国家の命令で若者が派遣され生死の境をさまようのをよそ事と見ない作者。押入れにおもちゃの戦車閉じ込めて動いちゃダメと命令する子 群馬 金子 歩美

動物はかわいしい裏切らないしわたしを愛さなくてもゆるせる 相模原市 榎本 ハナ
あの人をゆるしてよかつたとおもふ淡いピンクに咲く寒椿 横浜市 谷口 菜月

コンビニで欲しかったのはガムじゃなく人の気配と明るさだった 横浜市 友常 甘酢

夫との暮らしを守る気概見ゆ米の高値を嘆く娘に 春日市 伊藤 亮

清らかなる朝の淑気を肺気腫の胸いっばいに命おぼゆる 枚方市 衛藤 聰一

誰だって生きてるうちが華だよと高齢者から明る言葉 下関市 富本 均

教室に入った途端に一目惚れ 十六の恋は今や古希夫婦 守谷市 クボタヨウジ

米川千嘉子 選

初日の出仰げば母の口ゆるむ愚痴をひとつもこぼさぬ母の 千葉市 芍 葉

〈評〉いつも我慢強く余計なことは言わないのだから。そんな母の喜びの心がふっと漏れた。すてきな初日の出の歌だ。

ありもせぬ旨き話の満つる世や白鷺はいつも首かしげある 城陽市 近藤 好廣

〈評〉「旨き話」は闇バイトなどに限らない。シラサギに作者が重なってユーモラス。家族写真は割れ物なのもしれなくて捨てる

きには新聞紙に包んで 川崎市 二宮 珊瑚
人口の減りゆく街に無機質の新築増えて都会のごとく 日南市 宮田 隆雄

若かりし頃を忘れて嘆きたり新人類がZ世代を 千曲市 中村 美樹

「ひと言が詰つくんですなぜですかね」穂村弘氏があさんを語る 浜松市 久野 茂樹

空襲に怯えながらも働けるウクライナの蜂の蜂蜜とごく 鹿嶋市 大熊佳世子

密造酒あおるみたいに聴いていた誰にも貸せなかったCD 長岡市 三月 とあ

逃れむとするゲジゲジを啄みてイソヒヨドリは屋根へ連れ去る 瑞穂市 渡部 芳郎

金沢はおでん屋多き街と聞く「カニ面」といふおでん食ひたし 鹿嶋市 加津牟根夫

加藤 治郎 選

火曜日は何でもうま〜いさ〜ような気がしてるからゆ〜くり起きる 札幌市 橋 晃弘

〈評〉なんとなく火曜日が納得できる。そこが面白い。月曜日ではこころは感じないだろう。結句の余裕に人生観がにじむ。

心臓が歩いているみたいな感じ言葉が残り記憶は消えた 大津市 佐々木敦史

〈評〉比喩が大胆である。自由になれる。記憶より言葉が心に近いということか。

もうずっと立ちつくしているドアの前(フ)にかけた手はまだ動かない 四万十市 佐竹 紫円
カワセミの瑠璃瑠璃の夢の君君は瑠璃の火わたしを燃やす 東京 稲山 博司

一冊の寂しい本が教室にあるように君は転校してゆく 岐阜市 山上 秋恵

思い出を話そうとするその時に沈んだままの鍵盤がある 伊賀市 菅山 勇一

洗いたての顔を背けて朝焼けになにかの情報さがすきみ 平塚市 芝澤 樹

信じられない 岡山市 松井 度

ほどほどに客が入った明るめのフードコートで透明になる 横浜市 友常 甘酢

モヒールが静かに揺れて静止するわたしの中に芽生えるなにか 神戸市 中林 照明

投稿規定

はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100-8051(住所不要)毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、〇〇先生(希望選者名)係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム

(<https://mainichi.jp/kadan-haidan/>)でも受け付けています。他媒体との二重投稿や同一作品を複数の選者に投稿するのは厳禁。投稿は趣旨を変えずに添削することがあります。入選作は毎日新聞社の電子メディアやデータベース、アプリ「俳句てふてふ」で公開します。



こちらから投稿できます